

No.44 ダイアログの可能性

今回は、「ダイアログの可能性」についての情報提供をします。

私がダイアログをつくりながら旅をし続け感じたことを独断と偏見で述べてみました。あくまで一個人の想像ではありますが、こんな想いが私の中に存在します。

ダイアログを日常に取り入れて、自分という人生を歩みたい人が足を踏み出せる、この資料がそんなきっかけになれば嬉しいです。

もともと私は、地域教育を再構築したい、という想いのもと、地元のまちづくりの活動をしたり、ダイアログの場をつくったり、旅を続けたりしてきました。その期限としては私が50才を迎えるまでで、その時まで地域教育の象徴となる場を地元で設けることをひとつの目標にしてきました。

そこは、失われてはいけないことや、失ってしまったけど忘れてはいけないことなどを学べる場所で、例えば帰り道に寄ることができる数少ない場所で、そこで宿題をしてもいいし、友達と遊んでもいいし、畑仕事を手伝ってもいいし、掃除を手伝ってもいいし、資料から学びを得てもいいし。そんな場を地域の60代以上の人たちを中心に運営して、地域で子供を育て、そして地域でお年寄りを送り出す、そんな環境をつくりたいと思っています。

そんな場をつくりたい私にとってダイアログは、この様な地域教育の場の基礎となるものであり、地域のひとりひとりが日常に取り入れ、今よりもますます多様な時代を生きていくために必要不可欠なものになる、という仮説のもと、実際に場を設けて検証してみる必要のあるものです。

ここ数年ダイアログの場をつくってきた中で、ダイアログの場で自分の想いを自由に述べたことで主体的に行動し始める人にたくさん出逢ってきました。それに最近教育界で注目さ

れている主体性を持った学びの場づくりの話をよく耳にする機会があるのですが、ダイアログのスタンス自体が、そのような学びの場をつくるための基礎となる要素に活用できるようです。

ダイアログの目的である「探求」や「発見」は、個々のゴールに向かって気づきや学びを得ていくという「主体性」を重んじた学びの場には最適です。子供たちに対する教育の場や、大人に対しての教育の場など、教育と名のつくものの基礎として活用できる、私はそんな風に思っています。

ここで少し、「ダイアログを行うことでの効果」という視点で話をしてみます。

まずひとつめに、「自分の知らない世界を知れる」という効果です。これは複数の人間とダイアログしていくことで、その場に存在する人の数だけの価値観や基準などにふれる事ができます。自分と似た感覚の人もいれば、正反対の人も存在するのですが、まさにそれが今私たちが生きている世界を小さくしたような、そんな場としてダイアログをする人の持っている世界を広げる、そんなきっかけを与えてくれます。

ふたつめは、「自分という価値にふれられる」という効果です。ひとつめに挙げた「自分の知らない世界を知れる」という効果を経て、知った世界と自分の世界との違いから、自分自身を知ることができます。人の話に共感したり、異論を唱えたりしながら、自分自身が大切にしていることが何なのか、そんな価値観にふれるきっかけを与えてくれます。

3つめは、「自分のものさしを持てる」という効果です。知らない世界を知り、自分の価値観にふれ、ダイアログの場で探求していると、そういった流れで自然と、自分の基準を手にするようになります。自分はどこで立ち止まるのか、そういった自分自身の正しさの基準や、やるかどうかの判断基準にふれることもできます。それによって自分のものさし、いわゆる基準を手にするきっかけを与えてくれます。

3つほど「ダイアログを行うことでの効果」を挙げてみたのですが、知らない世界を知り、自分の価値観にふれ、自分のものさしも持つことができるとなると、結果的に自分の人生を生きることができる、それこそがダイアログを行うことでの効果なのではないか、と私は思います。

自分がどうありたいか、という問いを持ちながら毎日を生きること。それだけで目の前に起きる出来事の受けとめ方が違ってきます。その出来事とは、ご飯を食べることであったり、洗濯をすることでもあったり、人と話しをすることでもあったり、つまり日常におけるあらゆる出来事からいろんな学びをえることができます。

これは私個人の感覚で、まだ何の検証もしていませんが、ダイアログを日常に取り入れることと、今私が行っている「自分を知る旅」は同じような効果を生み出すのではないかなと。

すべてが予定通りの想定内の人生よりも、世界を少しずつでも広げながらの人生、私は後者の人生を選びたい人にいつの間になってしまいました。目の前の出来事を決めつけながら自分の人生を決めつけることは、時に安心を与えてくれるような、そんな気分になれるのかもしれませんが、私は怖いながらも知らない世界を知りながら、そして知らない自分を知りながら毎日を過ごしたいとそう思っています。

怖くてもOKなんです。なぜならば、「怖い」という感情を知り、それを探求することがダイアログを活用した生き方であり、偏りなく日常を過ごすために必要な要素となりますので。そのように自分自身の中にある怖れを理解すれば、例えば自分が行動をとる時に沸き起こる心理や感情の流れを受けとめやすくなります。

これらはいくまで私が旅をしながらダイアログの場をつくり感じたことたちを書いてみました。今回のテーマでは特に、みなさんの感じる「ダイアログの可能性」をぜひどこかで共有できると嬉しいです。私は権威ではなく、みなさんと同じダイアログを学び合う仲間なので、自由にみなさんの意見を聴かせてください。

終わりに、これから先、改めて公平性というものを考えるためにも公平性の基準となるものはなになのか、そして、その公平性の周囲にいる人たちはそれをきちんと合意しているのか、といったことをテーマにダイアログの場を持ちたい、と思うようになりました。

まだどのような場にするかは具体的ではないのですが、個々の「しあわせの再定義」をダイアログする場を旅先で設けていきたい、そう思っています。そして、そういった場をつくり続けることは、これから先に私が行っていききたい、自然と本音を話せる環境づくりのベースとなる、と私は確信しているところです。

今回は「No.44 ダイアログの可能性」のお話をしました。次回は「No.45 ディスカッション」の話をします。

「ダイアログの場には勝とうとする人はいません。」この言葉がダイアログのすべてなのかもしれません。目的が探求や発見することであるだけで、あとは勝ち負けも、正解不正解もない、そんな特殊なやりとりです。

あなたがうまくいったなと思うことでも、うまくいかなかったってことでも、あなたが実際にダイアログしてみた話をぜひ私に教えてください。それがまた私たちの探求や発見につながっていきますので。

ダイアログの教科書 No.44 ダイアログの可能性

投稿日 2015/07/01 ・ 最終更新日 2015/07/01

発行 COBAKEN LIFESTYLE LABO <http://cobaken.net>